

かしの木

第 56 号

2016 年 3 月号

発行 聖ヨハネ会高齢福祉部門
広報委員会
「かしの木」担当

〒184-0005
東京都小金井市桜町1-2-24
電話 042-381-1234

フランシスコ教皇様の 神のいつくしみのメッセージを思う

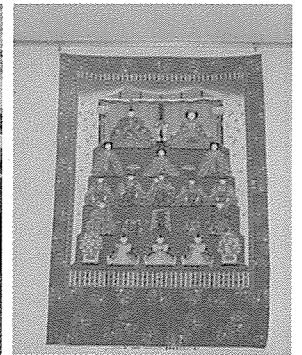
桜町聖ヨハネホーム園長 藤井 律治
統括施設長代理

フランシスコ教皇様は、この一年を神のいつくしみの特別聖年とされた。神のいつくしみとあわれみを、特別に感じ、味わい、その喜びの内に人々に届けることをお伝えされている。私は、この教皇様は教皇様になられた最初から神のいつくしみを喜びの内に貧しい人々に届けて下さっているように感じている。伝統的な洗足式で初めて女性の足を洗い、刑務所訪問をし、貧しいホームレスの為には、パチカンの広場にシャワー室を作られ、共に食事をされ、人々に仕えられている。また米国とキューバの国交回復にご尽力され、このたびは、カトリック教会とロシア正教の約千年の分裂に和解の道を開かれた。このような祈りと共に実践されるフランシスコ教皇様の愛の行いを知り、私自身もキリスト信徒としての生き方を励まされている。

私個人のことだけでなく、またキリスト教の法人として施設として、どう考えるかということ最近を特に思うのである。たとえば桜町聖ヨハネホームは、広域を対象とし東京都から認可を受けた特別養護老人ホームであるが、同時にカトリック施設として、カトリック司教様から認めていただいた特養ホームである。法人の理念と共にキリスト教の教えは、大変重要であると考えているからだ。

『神のいつくしみ、あわれみ』とはどんなものであるのか。

教会で行われたコンベンツアル・フランシスコ会の山口稔雅神父様の四旬節講話でお話があった。それは、わが子のことでからだの奥からわ



ひな壇（七段飾り）、内裏雛、タペストリー雛、桃の花、菜の花などなど…館内いっばいに飾り付け、季節のお食事、お菓子などを楽しみました。（ヨハネホーム ひな祭り）

き起こる親の愛のようであって、実に『はらわたがちぎれるほどの愛』というものであるとお話をされた。そして具体的に聖書の中で『はらわたがちぎれるほどの愛』をあらわしている箇所をいくつか挙げられたが、その中の一つは、ヨハネ会の創設者：戸塚神父様が、目指された善きサマリア人（ルカ10章33～37節）のたとえ話であった。サマリア人が追剥ぎに遭い瀕死の旅人をそれこそ親の愛『はらわたがちぎれるほどの愛』で助けたというたとえ話である。何度も聴いたたとえ話であるが、やはりこれが、私たちヨハネ会の原点であり目指すべき道であるとしみじみ思った。しかしながら、忙しい日常業務の繰り返しの中や様々な困難や壁の中で、目指すべき道の為に心一つにしていくことの高さや難しさも感じることも事実である。山口神父様は、忙しさの中にあっても、少しの時間でも、落ち着いた時間を持つこと、祈りの時間を持つことが大切であることも話された。私たちは、忙しさや苦しさの中にあっては、イエス様が私たち自身のすぐそばにいてそれこそ親の愛『はらわたがちぎれるほどの愛』で共にいて下さることに気づけず、道に迷い不安になることがある。『神のいつくしみとあわれみ』を少しの時間でも落ち着いた時間を持ち感じる一年とし、一步一步、目指すべき道を歩みたい。

2015年度より **組織改編し、部課制** となりました!

今回は、栄養部の課長と係長の2名の紹介です。

よろしくお願ひ致します



栄養課長（栄養管理係長兼務）
長縄 裕子

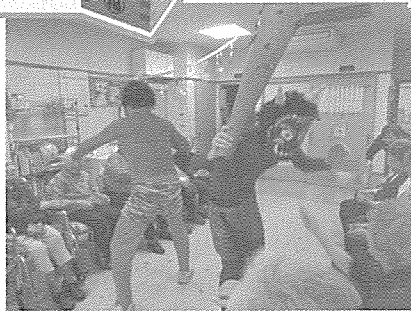
高齢部門のセンターとホームの厨房が1つの栄養部となって1年がたちます。センターにいらした方にとっては、お出かけ先の普段と違った特別なお食事、ホームのご利用者や配食を待っていて下さる方にとっては日々の生活に欠かせない日常のお食事。大切な1食1食をお任せいただいていることに感謝しつつ、お元気な方のお楽しみの1つとしてのお食事から、嚥下が難しくなられた方の少量で高栄養の摂れるお食事まで、お1人お1人のニーズにあったお食事をご提供できるよう、栄養部一同日々奮闘しております。これからも皆様のお声を聴かせていただきながら、丁寧なお食事作りに努めていきたいと思ひます。



総合給食係
係長 長津 宏史

高齢部門でホームとセンターにあった栄養部は一つになり、新しい体制で迎える2015年度でした。部として一つになり、新しく覚えなければならない事もたくさん出て来ますが、これからはそれぞれの良い所が発揮されてより良い食事サービスが提供できるよう、尽力して行きたいと思ひます。

節分行事



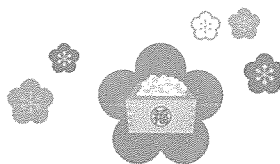
●桜町センター

2月3日(水)ご利用者と節分豆まきを行いました。鬼に豆(落花生)を投げる利用者様の力は健在で、鬼は倒れこんでしまいます!今年もセンター・ご利用者の皆様に、福が来ることを願っております。(ガリガリな青鬼より)



●本町センター

節分の日のお食事は、太巻きで演出し、季節の行事を楽しんで頂きました。



●ヨハネホーム

お部屋やデイルームに、赤鬼・青鬼に扮した職員が回りました。ご利用者の皆さまは、「鬼は外!福はうち!」と大きな声をだして、童心にかえって豆(安全な物)をおもいっきり投げっていました。

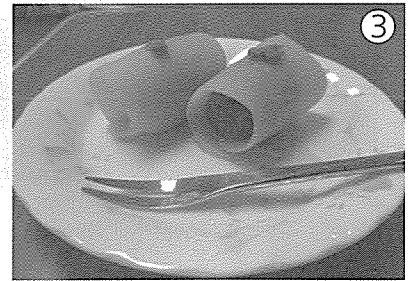
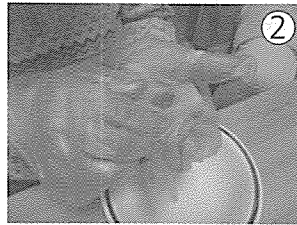
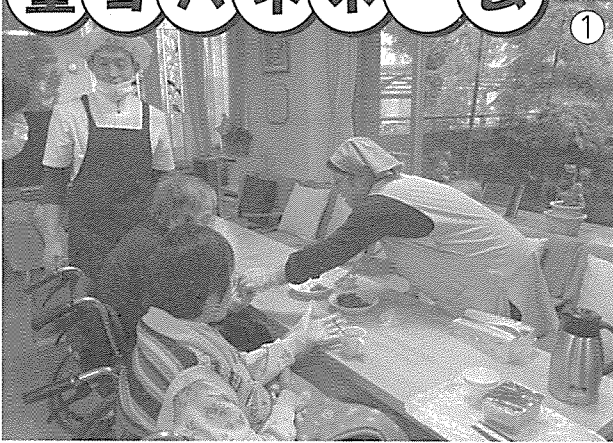




栄養部の取組み紹介



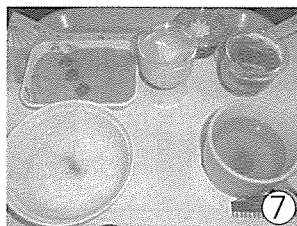
聖ヨハネホーム



☆ご利用者の皆さまとのミニ栄養講座、季節のお菓子づくり(写真①②③)など、ご利用者とのコミュニケーションを大切にした取組を行っています。



☆食事時間の巡回、選択メニュー、デザートバイキング、コーヒーサービス(写真④⑤)などを行い日々の生活に楽しみが持てるような食事の提供に努めています。



☆四季の暦食(ひな祭り巻寿司・花麩清汁・菜の花蒸・炊合せ・いちご)(写真⑥)など、季節感のある食事の提供に努めています。(ゼリー食とご希望によりお粥付)(写真⑦)



桜町・本町センター



☆桜町センター・本町センターでは、『丼ものシリーズ』を始めました。写真⑧は天丼です。その他にもビビンバ丼やロコモコ丼などもご提供させて頂いています。その他、文化祭では模擬店を開催するなど、イベントに合わせた演出を心掛けています。(写真⑨)



☆桜町センターでも、食事の配達を行っています。写真の献立は、プリ大根とじゃが芋の胡麻煮です。

☆本町センターではお弁当の事業にも取り組んでいます。栄養バランスの取れたお食事を提供します。





喫茶室りりー『さくらカフェ』

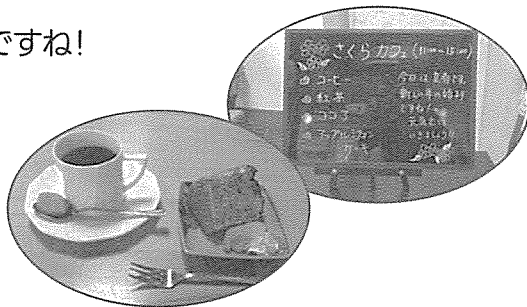


毎週木曜日、ヨハネホームのロビーで、私たち栄養部の職員が喫茶室りりー『さくらカフェ』を開催しています。今はホームとセンターに関係する方々限定ですが、ご利用者様、ご家族様、ボランティアの皆様、職員の皆様のお越しをお待ちしております。

「今日は立春です。新しい年のはじまりですね!

元気出していきましょう!!」

今日のメニューは、コーヒー、紅茶、ココア、シホンケーキ、やわらかイチゴケーキ(嚥下障害対応のケーキ)です。



他に、ご家庭で作れる簡単栄養メニューの展示コーナーもあります。

テーブルには、中庭園芸ボランティアの皆様が育てた季節の草花などを飾ります。



言葉の花束

「いつくしみの特別聖年」

教皇様の一般特別謁見演説より抜粋

統括施設長 Sr 相松 幸子

フランシスコ教皇様はローマのサンピエトロ大聖堂で、いつくしみの大聖年の扉を開きこの一年間を「いつくしみの特別聖年」と定め、神である御父を仰ぎ慈しみを必要としている兄弟姉妹に目を向けることは、福音の本質的要素を意味しています。この聖年に当たって教皇様は結婚に失敗した人や再婚者、中絶をしてしまった人、同性愛者等、罪の状態に苦しみ傷ついている人々に慈しみの手をさしのべ憐れみ深い神の愛と慈しみを伝える教会の姿を示しておられます。この聖年の間「神が最も喜ばれること」を学び私たちが神と隣人をイエスのように温かい心で深く愛する者としてくださいますように、一人の心を神の愛の賜物で満たしてくださいますように。

今後の予定

ヨハネホーム

- 4月1日 創立30周年記念日
- 5月5日 お節句
- 7月7日 七夕
- 7月27日 納涼祭



桜町センター

- 4月 お花見ドライブ
- 5月2日 しょうぶ湯
- 5月14, 19日 音楽イベント演奏



本町センター

- 4月 お花見ドライブ、音楽イベントコンサート
- 5月 春の喫茶外出



【編集後記】

桜も咲き始めました。小金井公園は、江戸時代から知られた都内有数の桜名所とのこと。お花見客が今年も沢山訪れることでしょう。ヨハネ会高齢福祉部門の各施設でも、ご利用者の皆さんと外に出て、春を満喫したいと思います。(委員T.Y)

